

## 「若手の会企画による小集会 (12)」 開催報告

神山拓也<sup>1)</sup>・安達俊輔<sup>2)</sup>・大井崇生<sup>1)</sup>・亀岡笑<sup>1)</sup>・出口哲久<sup>3)</sup>・服部林太郎<sup>4)</sup>・松山宏美<sup>5)</sup>

(<sup>1)</sup> 名古屋大学大学院生命農学研究科, (<sup>2)</sup> 東京農工大学大学院連合農学研究科, (<sup>3)</sup> 北海道大学農学院生物資源研究科,

(<sup>4)</sup> 大阪府立大学大学院生命環境科学研究科, (<sup>5)</sup> 中央農業総合研究センター)

2012年3月29・30日に行われた日本作物学会第233回講演会(東京農工大学)において、30日に若手の会企画による小集会を開催した。また、31日には、若手の会主催でエクスカッションを実施した。

30日の小集会は、若手の会への新規参加者獲得を目指し、非研究職および研究職を目指す両方の若手の将来に役立つテーマにすべく、「伝わるプレゼンの作り方」と題した。小集会は講演主体の第一部(16:00~17:00)と議論主体の第二部(17:00~18:00)の二本立てとした。

第一部では、日本サイエンスビジュアルイゼーション研究会(JSSV)から3名の講演者(田中佐代子氏、小林麻己人氏、三輪佳宏氏)に話題を提供していただいた。田中氏からは、「研究発表に役立つビジュアルデザインのキホン」と題して、画面の構成、配色、書体の選択と文字組、パワーポイントによる図の描きかたについて講演していただいた。小林氏からは、「実例! スライド作りのなるほどポイント紹介」と題して、実際のスライドを例にとり、デザインとイラストの2つの面からスライドの具体的な作り方について講演していただいた。また、三輪氏からは、「『納得』を生むプレゼンテーション ~理解と納得はどう違うか~」と題して、「理解」と「納得」の違いにスポットをあて、「伝える技術」について講演していただいた。第一部への参加者は約50名で、若手に限らず幅広い層からの参加がみられ、本テーマへの大きな関心がうかがわれた。小集会後のアンケートでは、「講演がとても興味深く今後の役に立つ」といった意見が非常に多く寄せられ、多くの先生方からも勉強になったとの意見をいただいた。

第一部終了後に30名ほど退席したため、第二部の参加者は約25名であった。講演者と発起人を含む参加者を3組の班に分け、それぞれの班で、事前に準備した研究紹介プレゼンを各班2名ずつ披露してもらった。その後、それらのプレゼンに関して各グループで議論した。第一部で学んだことを意識して議論することができたため、第二部も

大いに盛り上がった。普段聞くことのできない、それぞれの参加者のプレゼンへのこだわり、問題点を聞くことができ、非常に刺激的であった。一方で、一部から二部へ移る際、設営に時間が取られ、議論のための十分な時間が確保できなかった。この点は今後の課題である。

なお、30日の小集会は文部科学省科学研究費補助金新学術領域蛍光生体イメージとの共催にて開催した。

31日には、さまざまな大学の独自の実験設備や手法について若手どうしで知識を共有できないかという経緯から、東京農工大学において、若手の会主催で初めてエクスカッションを実施した。参加者は9名であった。東京農工大学の大川先生、安達によるガイダンスの後、実験室、植物工場、温室の順に見学した。全体を通じて、東京農工大学の研究の歴史を知るとともに、同大独自の実験手法や設備をつぶさに見学・学習できた。中でも、近代的なブルーベリーキャンパスファクトリーでは、その設備の充実ぶりに参加者一同が圧倒された。このようにエクスカッション自体は非常に満足度の高いものとなったが、参加者が少なかった点に課題が残った。この点については、事前の告知方法や日程を再考し、今後は参加者の増加に努めたい。また、若手によるエクスカッションは初の試みということで、今後の試金石になるよう注意事項を引き継いでいきたい。

今回の小集会では、当初のねらい通り、修士・学士の学生らを中心に、多数の新規参加者が得られた。今後も学生をはじめ若手の参加を増やし、若手の会主体で、より活発な活動が行われることを期待したい。

若手の会のメーリングリストでは、若手の会発起人からの経過報告、会員が関係しているシンポジウムの情報、そのほか海外で活躍している若手からの情報などが活発にやりとりされています。メーリングリストへの登録者は随時募集していますので、参加を希望される方は、服部(rintaro.h2007@gmail.com)までご連絡ください。